

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間の間も主の平安で守られましたか。12月の初めの主日です。多事多難（たじたなん）だった今年もすでに最後の12月だけを残しています。今年みなさんにとってどうでしたか？今年も主にあつて、有終の美をかざりますように、そして御降誕の感謝と平安がみなさんの上に、注がれますよう切にお祈り申し上げます。アーメン！

今日は使徒の働きの講解8回の時間です。我々は使徒の働きを通して聖霊がともいおられる初代教会の姿をとおして、こんにち我々の教会もどんな教会となるべきなのか、どんな方向に進むべきなのか青写真（おあじゃしん）として学ばされています。

1. 神の御言葉と御言葉を伝える者をとおして聖霊が働かれる教会

先週のメッセージでは聖霊の力強いみわざによって3000人が悔い改めて、主の弟子に入れられた前代未聞のみわざが起こりました。このように力強い御業は聖書のどこにも、人類の歴史においても繰り返された事はありません。地上での新約教会の始まりだったので、神様の御業はさらに大きくなされたでしょう。

このような聖霊の働きは二つの要素をとおして表れました。

それは‘御言葉’と‘御言葉を伝える人’です。ペテロというメッセンジャがいました。そして彼を通して伝えられた真理の御言葉がありました。聖霊様は独断的（どくだんてき）に働きません。しかし、多くの人々がこの点を見逃しています。聖霊の働きは何の媒体（ばいたい）なしにいきなり満たされません。もちろん自分は何もやってないのに特別な時はそうする場合もあります。全能なる聖霊の神に不可能はないからです。しかし、事実そのような方法はいまの時代サタンがもっと使っている場合が多いです。

御言葉もなく、御言葉を伝える者もなく、特定の人に神秘的に臨まれ、満たされる事はサタンの働きである可能性が高いということです。聖霊様は主の御言葉を分かち合い、伝える者を通して神様の御言葉を強く用いられました。

“人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」と言った。”(2:37)

“ペテロは、このほかにも多くのことばをもって、あかしをし、「この曲がった時代から救われなさい。」と言って彼らに勧めた。”(2:40)

“そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた”(2:41)

悔い改めた3000人はペテロをとおして何を聞きましたか？

神様の言葉を聞きました。その後、使徒たちは何をもちて証し、勧めましたか？

40節に、“多くのことばをもって”つまり、神様の御言葉をもって証し、勧めたと書かれています。そして、これを聞いた人々はその場で悔い改め、洗礼を受けました。

41節に、なぜ聖霊を受けた人々'だと言わないで、'彼のことばを受け入れた者'だと書かれたのでしょうか？

聖霊は神様の言葉、つまり聖書をとおして働かれるからです。そういうわけで、神様の御言葉を伝えるとき、聞くとき聖霊が働かれるため、力強い神様の御言葉となるのです。

ですから、愛する信仰の家族のみなさん！今みなさんは神様の御言葉に対してどんな心構えと姿勢を持っているのでしょうか。謙って、心を開き、今下さる主の御言葉が自分のために語られているとして信じ、受け止めようとする人々には聖霊の神様はかならずその主の御言葉を通してみなさんのうちに働いて下さると信じます。いくら長年毎週主の礼拝に集っていても、いくら多くの主の御言葉が語られても実は耳と心は閉ざされていて、いろんな自分の考えで、いろんな自分の思い煩いで、実際には御言葉を聞かず、集中する事もできず、いつ終わるんだろう、この御言葉はあの人が聞かないとのような心構えと姿勢であるならば聖霊の神様はその人のうち働いて下さりません。なぜでしょうか。主の御言葉を自分に受け止めていないからです。みなさんは日々共におられる聖霊がみなさんを導き、助け、満たして下さるように心から望んでいますか。本当にそうしたいのであれば、日々御言葉と共にしなければなりません。朝でも、晩でも一日中短くてもクリスチャンの生活の基礎であり、クリスチャン生活の生命線であるデボーション（静まって主の御言葉、祈りを持って黙想し、交わる敬虔な時間です。この時間は）の生活をしなければなりません。

聖霊の神様は主の御言葉を通して力強く主の教会に、みなさんのうちに働いておられる方である事を忘れないように共に心に刻んでおきましょう。

第一テサロニケ人への手紙1章5節で、“なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところ、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。”そして、第一コリント人への手紙2章4節“そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。”と書かれています。

ですから御言葉、聖霊、そして力との間には恵みの公式が成立されます。最近神様の御言葉に捕らわれていますか？その人はだれに捕らわれている者でしょうか？そうです。聖霊様に捕らわれて、満たされているのです。聖霊に捕らわれているならば、その人には何が表れるでしょうか。当然聖霊の力と聖霊の実が表れると信じます。

2. 真理の御言葉にあつて戒め、聖霊が働かれる教会

ペテロをとおして宣べ伝えられた神様の御言葉には大切な二つの内容が含まれています。‘律法的内容’と‘福音の内容’です。ここで、律法とは何でしょうか？

罪を責め、心に隠されている暗い事をさらけ出すことが律法の役割です。ペテロは説教の中で群衆に向かって責めました。23節を見てみてください。“あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。”

もし、こんにちの教会の中で、このようにあやまちを指摘し、責めるメッセージをするとこれを聞く人はどのぐらい残るのでしょうか。？ある面、クリスチャンと言いながら、我々の信仰がどれだけ軟弱なのか分かりません。だれがそうさせたのでしょうか。子供が偏食するように、親が放置したからです。つまり、親の責任が大きい様に、今日の教会の説教の中で、あやまちを指摘し、叱ることのできなかつた説教者の責任が大きいと思います。ですから、悔い改めるべき罪の一つは私を含め、牧会者たちの罪であり、責任だと思ひます。牧会者であるなら、この問題において、とつても恐れるべきであります。当然、悔い改めるべき罪をしっかりと指摘できない御言葉の講壇はすでに力を失つてしまつた講壇です。

愛する信仰の家族のみなさん！悔い改めた3000人はもしかすると、イエスを十字架につけると叫んだ人たちだつたかも知れません。そういうわけで“あなたがたは... 不法な者の手によって十字架につけて殺しました。”という言葉は彼らの一番痛いところを刺されたかもしれません。ペテロの説教は彼らの耳を楽しませるような説教ではありませんでした。むしろ、聞く人々を苦しませる説教でした。

ある面、強い拒否反応を起こしそうな説教でしたが、聖霊のみわざがその場で表れるとき、その3000人は神様の御前で悔い改める御業が起こつたのです。

“人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」と言つた。”(2:37節)

説教者が罪を責め、教会の間違つたところに対して御言葉で正しく、教え、宣布することができないのであるなら、聖霊様も悲しんで、働かないでしょう。

愛する信仰の家族のみなさん！相手の気に入るようなことばに乗せられて人々が集まるのでしょうか。そのような教会もたしかにあると思ひます。しかし、彼らの動機は真にイエスを信じることより、神様の御言葉を利用して、自己満足や、自己合理化のため教会に訪ねる場合が多い事をしばしばみています。

しかし、それにもかかわらず、神様の御言葉を律法だけで説教するわけにはいけません。医者が手術をした後、開腹（かいふく）しておいたまま、患部（かんぶ）をそのまま置くなら、それは完全な手術ではありません。かならず、封（ふう）じてくつついてくるように ちゃんとかえりみなければなりません。ペテロは律法で彼らを厳しく責めた後、福音を提示（ていじ）しました。その内容が先週の38-40節の箇所です。一度お読みします。

これがまさに福音なのです。律法にも力があり、福音にも力があります。

神様の御言葉において律法は我々の罪を悟らせ、福音は我々を罪から赦しを与え、持ち上げて下さいます。

<悔い改めてイエスを信じ、バプテスマを受けた人々に同時に働かれる聖霊 >

神様の御言葉を聞いて悔い改め、罪赦された彼らにいただける賜物があると言われました。それは聖霊の賜物です。38節“そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス_キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。”これは賜物が聖霊ご自身だということです。

神様からの‘聖霊の賜物’はいついただけるのでしょうか。？罪を悔い改め、赦されるときです。

我々も水でバプテスマを受けたとき、聖霊が臨まれ、確かに働きますが、ある人々は聖霊のバプテスマを受けてないような場合もあります。まるで、バプテスマのヨハネに水のバプテスマを受けて、イエス様についていた群衆のようです。洗礼を受けたのにもかかわらず、心も熱くなく、イエス様に対する熱心もありません。祈りには力もなく、つねに、自分だけを愛し、愛を施すにもぶいです。自分の生活には何の変化も起きないままの生活の繰り返しです。このような人々を念頭にして、聖霊の二次的御業という理論がでたのです。

洗礼を受けたのにもかかわらず、何の変化もなさそうに見えるこのような人々を見ながら、聖霊はいつかもう一度新しくさせる機会があればと思われまふ。体験でも、どんな悟りでもかまいません。‘聖霊の二次的御業’という理論を100%そのまま受け入れがたいですが、確かに特別に働かれる聖霊の恵みがあるとは信じます。

つまり、イエス・キリストを救い主として信じて始めから変えられる人もいますが、洗礼を受けてしばらく経つてから御言葉をとおして、変えられる人たちもたくさんいると思ひます。

ですから、みなさん。水のバプテスマを受けたとき、罪赦された感激も大きいと思ひますが、同時に聖霊が強く働かれます。しかし、ある人々には洗礼を受け、罪赦された確信もありますが、聖霊の働きがあまりにも渴いてしまつたため、2次、3次、御言葉をとおして聖霊が強く働き、臨まれる恵みの時もあることを忘れないで下さい。ですから、いま信仰がとぼしいからといって失望する必要もなく、いま信仰の確信と熱心があるからといって自慢してもいけないのです。

ここに集つておられるみなさん、一人一人もかならずエルサレムが勝てなかつた3000人のように、この時代が勝てない神様の人、聖霊の人々になると信じます。アーメン！

<3.聖霊がともにおられることにより天国を味わつた主の教会>

3000人が聖霊に満たされました。聖霊に満たされると、特別な何かがあるのではないかとする期待がありませんか。？しかし、彼らにいただいた聖霊充満の証拠は神秘的な賜物で表れた訳ではなく、生き方に表れました。生き方の変化に表れたので

す。信仰の生活と日常生活をとおして聖霊に満たされていることを表せてくださいました。どんなにすばらしい姿でしょうか。？ 42節です。“そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。”

ここに、初代教会の聖霊に満たされた信徒たちに表れた大切な信仰生活の四つの原理が見えます。

つまり、初代教会の信徒たちはイエスを信じて、使徒たちの教え、つまり神様の御言葉に堅く立ったということです。それだけではなく信徒たちの交わりにも参加し、そしてパンを裂きながら、イエス・キリストの十字架を覚え感謝しました。そして、最後にたえず祈りました。(御言葉、祈り、信徒の交わり、キリストを黙想し見上げること)

彼らの姿を見習って、我々も聖霊に満たされる人になりたいなら、自分を探る時間が必要です。自分は現在、神様の御言葉を愛し、御言葉に堅くたっているのか、いつも信徒同士でまじわろうとしているのか、そして信徒と一つの心で祈り、パンを裂きながらイエスの十字架を覚えようとしているのかです。

46節です“そして毎日、心をつにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし”

つまり、聖霊に満たされる生活とは証人の生き方です。口でイエスを信じなさいと歩きまわらなくてもすでに彼らの生き方そのものでイエスキリストを証しします。これがまさにクリスチャンの生き方なのです。教会の枝である我々が家庭や社会で聖霊に満たされた生活をすれば、福音を伝えるチャンスは自然に与えられ、我々をとおしてイエス様に対する魅力を感じる人々は自然について来ます。こうなると教会はかならず成長できます。聖霊が臨まれた初代教会の聖霊充満の証拠はこのように信徒たちの生き方の変化で表れました。

神の国とはどんなところでしょうか。聖書では死後に行く天国として、また、この地で経験できる国として説明しています。しかし、どこにも神の国は喜びと痛みを分かち合い、実際の生活の分かち合い（言葉だけではなく）が豊かになされる所です。イエスキリストは言われました。「そら、ここにある」とか、「あそこにある」とかいえるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」(ルカ17:21)

聖霊の神が共におられる主の教会は神の国を経験するところでした。分かち合いが豊かな場所でした。

人生の喜びや痛みをともに分かち合うとは、物質的な分かち合い（必要に応じて自分のものとせず共有する）も含まれていました。「もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物もこと欠いているような時に、あなたがたのうちだれかが、その人たちに安心して行きなさい。暖かになり、十分にたべなさい」と言っても、もしからだに必要な物をあたえないなら、何の役に立つでしょう」(ヤコブ2:15-16)

神の国は、愛の分かち合いが豊かな所です。聖霊の神が共におられる主の教会はその実際の愛の分かち合いが豊かなところでありました。きっと天国に行くと、みな愛の分かち合いを実践しているのを見ることができると信じます。

この地で私たちが主の教会であるクリスチャンプレイズチャーチという信仰の共同体の中にも豊かな愛の分かち合い、生活の変化によって神の国を体験できるところにますます変えられて行きますように切にお祈り申し上げます。

愛するみなさん！我々もまことにイエス様を信じて受け入れ、聖霊がともにおられるなら、教会内だけではなく、我々の家庭で、日常の生活において変えられて行きましょう。言葉に気をつけ、いつも徳を高める行動を取り、自己中心から、他人中心へとイエス様の愛を分け与える事ができる小さいイエスとなりますように、これからも生活の変化、一人一人自分自身からの変化によって神の国をますます広げるクリスチャンプレイズチャーチの全家族となりますように祝福します。聖霊が共におられ聖霊の神によって初代教会が美しく変えられた御業が今日もクリスチャンプレイズチャーチと皆さんの上にも表れる祝福の12月となりますよう救い主イエス・キリストの御名によって祝福しお祈りします。アーメン！